

生き物生息場づくりPT政策提案 「マコガレイ産卵場の底質改善」の効果

マコガレイの産卵は、主に東京湾の北部沿岸で行われています。泥質分の多い底質は、沈性粘着卵であるマコガレイ卵のふ化率を低下させ、資源の減少原因の一つになっていると推察されます。

そこで、生き物生息場づくりPTは、官民が連携して取り組むべき生き物生息場づくりの具体的な政策の一つとして、「東京湾北部沿岸におけるマコガレイ産卵場の底質改善」を東京湾再生推進会議に政策提案し、社会実装されました。

令和元～3年に習志野市茜浜地先のマコガレイ産卵場に、細砂主体の良質な浚渫土砂が投入され、その後の追跡調査では、毎年、マコガレイの産卵が確認されています。(図1～7)

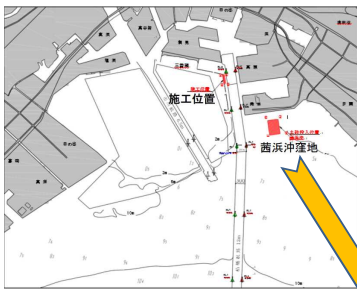


図1 底質改善の場所

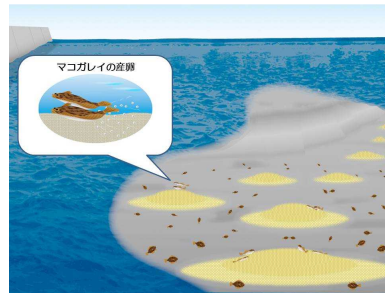


図2 底質改善のイメージ

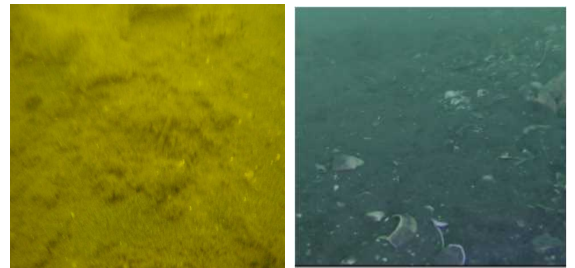


図3 底質改善前(左)と改善後(右)

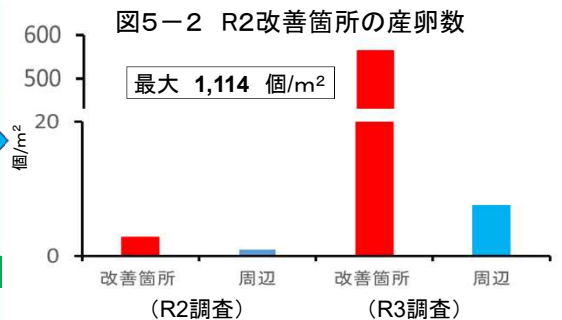
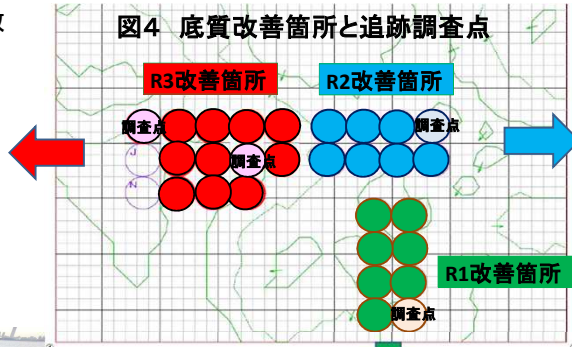
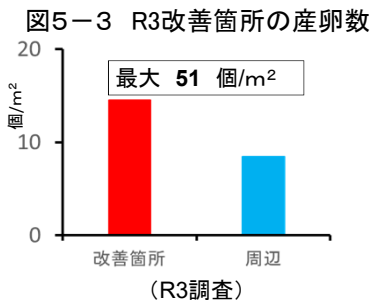


図6 追跡調査の様子

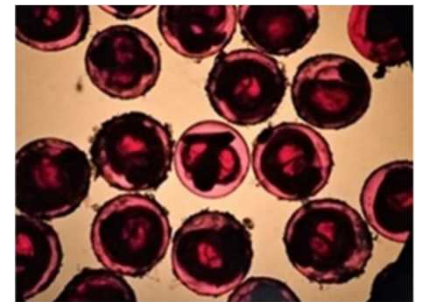
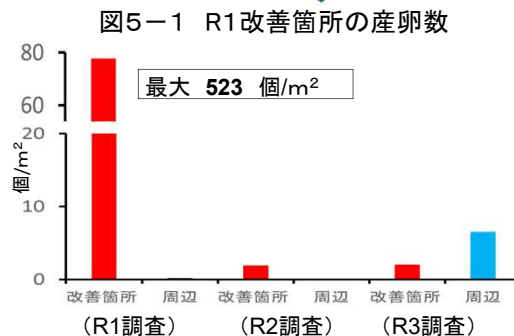


図7 マコガレイ受精卵
(見やすいように染色しています)

※改善箇所と比較している「周辺」とは、茜浜地先で千葉県水産総合研究センターが継続して産卵場の調査をしている9地点の平均値を用いています。



2022年6月に、東京湾において2004年以降で過去最高密度のマコガレイ稚魚の出現が確認されています。

生き物生息場づくりPTは、マコガレイ産卵場の底質改善の効果を検証するため、今後も関係機関と連携して底質改善場所での底質調査及び産卵状況調査を行う予定です。

このような生き物生息場づくりの取組みが、東京湾の再生につながることを切に願っています。